

令和3年度

山形県みどり環境交付金事業【真室川町】

◇団体紹介

真室川町は、山形県のほぼ北端に位置し、総面積は、374.22km²に及び、町総面積の87%・327.67km²を森林が占め、そのうち国有林が262.32km²とほぼ8割を占め、残りの約2割・65.35km²が民有林です。民有林の約7割が人工林で構成され、人工林の3割が保育等の必要な森林で、間伐等の森林施業（保育）が行われず、森林が荒廃していることから、みどり環境税事業や各種補助事業により森林整備が図られています。

◇活動内容

木に親しむ環境づくり事業

県産間伐材を活用した木製品（下駄箱）を小学生と一緒に作成し、学校へ設置することで県産材の利活用とPRを行いました。



女甕山の大きなカヅツ

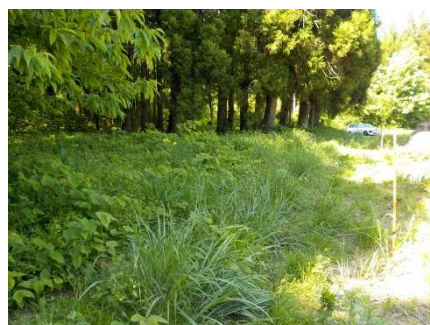
森や自然とのふれあい事業

自然環境学習として、町内2小学校で「木工クラフト体験」を実施し、木の枝やどんぐり、松ぼっくり等を使用して写真立てを作成しております。子ども達も真剣に取り組みました。また、学校林の利活用に備えた地区住民による下刈り作業を実施しました。

木工クラフト体験教室の様子



学校林整備



前



後

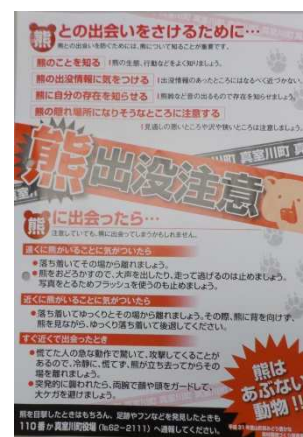
豊かな森づくり活動事業

クマ出没時の注意喚起（有害鳥獣対策）として「有害鳥獣注意リーフレット」を作成し、町内全戸に配布し、出没箇所には「クマ注意喚起幟」を設置しました。「ナラ枯れ被害林再生」事業として、真室川小学校4年生児童を対象としたブナ、コナラの植樹体験会を開催し、森林の持つ役割について、学習する場を提供しました。

ブナ植樹



クマ注意喚起チラシ



◇活動の感想及び今後の展開

森や自然とのふれあい事業の教材として、今後活用が期待される「学校林整備」と「木工クラフト体験」を関係機関からの協力のもとに実施し、森林の持つ多面的機能について学習機会の提供が出来ました。豊かな森づくり活動事業として、緩衝林整備を実施しました。「梅里苑 体験交流の森」には広葉樹の植樹を実施し、森に触れ合う環境づくりも実施しております。今後も子どもたちへ森や自然と触れ合う機会を増やせるよう体験型の学習に取り組んでいきます。